

※最新版は、

https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。



特別支援教育リーフ Vol.18

「自立活動」をプラスして、子供の
できた！わかった！を増やしていこう



独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所

インターネットによる講義配信もあります。詳しくは「[NISE 学びラボ](#)」へ



「自立活動」って、一体どんなもの？

「自立活動」は、特別支援学校学習指導要領において設けられた指導領域です。特別支援学級では自立活動を取り入れて、通級による指導では自立活動の内容を参考にして、実態に応じた特別の教育課程を編成します。個々の子供が自立を目指し、障害による学習上や生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことを目指しており、一人一人の障害の状態や発達段階に応じた教育課程を編成していきます。

先生方の教育活動に「自立活動」をプラス（+）することで、子供のできた！わかった！を増やし、一人一人の自己実現につなげていきましょう。

- ◆どんな自立活動をプラス（+）したらよいか整理してみよう
- ◆自立活動の例を参考に考えてみよう
- ◆自立活動の指導をプラス（+）したことによる「子供の変容」を捉えてみよう

次のようなステップでプラス（+）する「自立活動」を考えてみよう

ステップ1：実態把握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られるその子の強み、課題等について情報を集めましょう。

ステップ2：指導目標の設定

① 自立活動には6つの区分があります。集めた情報を「自立活動」の6つの区分に整理してみましょう。

- | | |
|----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 健康の保持 | <input type="checkbox"/> 心理的な安定 |
| <input type="checkbox"/> 人間関係の形成 | <input type="checkbox"/> 環境の把握 |
| <input type="checkbox"/> 身体の動き | <input type="checkbox"/> コミュニケーション |



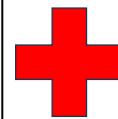
② 学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況から課題を整理してみましょう。



③ 将来の姿を思い描いてみましょう。



ステップ3： 具体的な指導内容



自立活動で
どのような
課題に取り
組めたら
プラスに
なるかな？



例えば、このような「自立活動」をプラスしてみましょう！

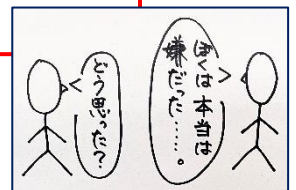
- 「場や他者の様子を読み取りにくい」子供とのやりとりに、「コミック会話」を取り入れてみましょう。

静かにしなければいけないときや友だちと話をしてもいいとき等の区別がよくわからなかったり、話の内容が冗談なのか本気なのかがわからないことがあったりすることから、その場の状況理解が難しく、人に対してやその場の状況に応じた言動がうまくできないのかもしれません。

「コミュニケーション」の区分を意識した自立活動をプラス！



「コミック会話」とは、人物を線画で描いて、それに漫画でよく使われる「吹き出し」の中に言葉を入れていくものです。コミック会話を活用して、できごとの流れを確認したり、他者の気持ちを想像したりすることを通して、日常生活における他者の心情理解に結び付けます。



- 「物事を自分のペースで進めてしまう」子供の活動に、「楽しみながら時間の感覚が意識できる要素」を取り入れてみましょう。

どんな活動や作業にどのくらいの時間が必要なのかということや、実際に取り組んでいる活動を最後までやりきるためにはどのくらいのスピードで取り組むとよいのかという感覚が弱いと、所定の時間内で計画的に活動を進めることが難しく、結果として、物事を自分のペースで進めてしまうのかもしれません。

「環境の把握」の区分を意識した自立活動をプラス！



「ジャストタイムリレー」という活動を取り入れてみましょう。これは、決められた距離を決められたタイムで走る活動ですが、これをリレー形式で行うことで、個人のスピードのみに注目が集まりにくくなり、ほかの子供のスピードを手本にして自分のスピードを調整することができます。



- 「書くことが苦手」な子供には、「見ること」や「手首や指をスムーズに動かすこと」を意識した活動を取り入れてみましょう。

文字を書くときに時間がかかったり、枠の中にきちんと収めることが難しかったりする子供は、視線を手元付近に集中させることが難しかったり、力をうまくコントロールできなかったりすることから、一生懸命書こうとすればするほど、手首や指先が力んでしまい、スムーズに動かせていないのかもしれません。

「身体の動き」の区分を意識した自立活動をプラス！



見るという動作の中の「注視」や「追視」を意識して、迷路のようなゲームをしたり、お手玉などの活動に取り組んだりしてみましょう。

また、文字を書く活動の前準備として、手首や指先がリラックスできるようにストレッチや、手首をひねる雑巾絞りのような運動を取り入れてみましょう。



☆さらなる理解のために☆

自立活動の指導をプラスしたことによる「子供の変容」を捉えてみよう

子供たち一人一人の様々な実態に応じて、周りの先生方とともに情報を少しずつ整理していきながら、その子にとって必要と考えられた自立活動をプラスしていくことで、子供たちの「できた!」「わかった!」は、きっと増えていくはずですが、しかしながら、それらの姿がすぐに現れるとは限りません。子供が変わっていく、成長していく過程に要する時間にも、子供一人一人にその子なりのペースがあるからです。指導を始めてしばらくは、先生方にも迷いや不安な気持ちが出てくることもあるかもしれません。日々の指導の振り返りを行う際に、以下のポイントを参考にしてみましょう。

- ① 指示・教示は子供が理解しやすい伝え方でしたか？
- ② 発問の意図は、子供に正しく伝わっていましたか？
- ③ プラスした教材（題材）は子供の理解に応じた内容、興味・関心を喚起するものでしたか？
- ④ 学習環境（座席配置や板書等）は子供の意欲や理解を促すものでしたか？
- ⑤ どんな場面で、子供は困難さを感じていましたか？それはなぜだったのでしょうか？
- ⑥ どんな場面で、子供は主体的に学んでいましたか？それはなぜだったのでしょうか？

これらの視点を大切にしながら、「PDCA サイクル」を意識した自立活動の指導を行っていきましょう。

（通常の学級の指導内容に自立活動はありませんが、子供たち一人一人の自己実現を目指す上で、子供の変容を捉えながら、「どのような活動がプラスできるかな」という視点で日々の指導・支援を考える際に、「自立活動」を参考にしていくことはとても大切です。）



<引用・参考文献>

○ [特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）](#)



○ [文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（令和3年）障害のある子供の教育支援の手引き
～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～](#)



○ [やまぐち総合教育支援センターふれあい教育センター R元～R2研究成果物
「インクルポケット」](#)



○ [国立特別支援教育総合研究所「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！」](#)



 独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★NISEのホームページ

<https://www.nise.go.jp/nc/>



編集 情報・支援部

TEL 046-839-6803（代表）

初版発行 令和6年 8月